

トルコの金利引き下げについて

2014年5月23日

5月22日(現地時間)、トルコ中央銀行は金融政策会合を開催し政策金利である1週間物レポレートの引き下げを決定(10.0%から9.5%へ)しました。市場関係者の多くは今会合での金利据え置きを予想しており、この決定を受けて短期金利は急低下しましたが、為替レートへの影響は現在のところ限定的となっています。

なお、翌日物貸出金利は12%、同借入金利は8.0%のまま据え置かれています。

《利下げ決定の経緯について》

トルコ・リラは昨年12月の米国の量的金融緩和QE3の縮小開始決定を受けて、それまで流入していた証券投資を中心とする海外資本の引き揚げが本格化すると観測が強まり、下落基調を強めました。さらには国内の政党間の対立を背景とした政財界の汚職疑惑、今年1月には以前から懸念されていたアルゼンチン・ペソの急落に加え、ウクライナ問題の拡大も加わり下落が加速しました。このため政府・中央銀行は市場の懸念を払拭するため政策金利で+5.5%の緊急かつ大幅な利上げを実施しました。

その後QE3縮小路線が完全に市場に浸透したこと、これまでのウクライナ問題による世界経済への影響が限定的であったこと、さらには3月に行われた地方選で現政権への信任が強まったこと、これらを受けた為替レートの落ち着きが見られたことなどから、政府の利下げ要請も強まっていました。

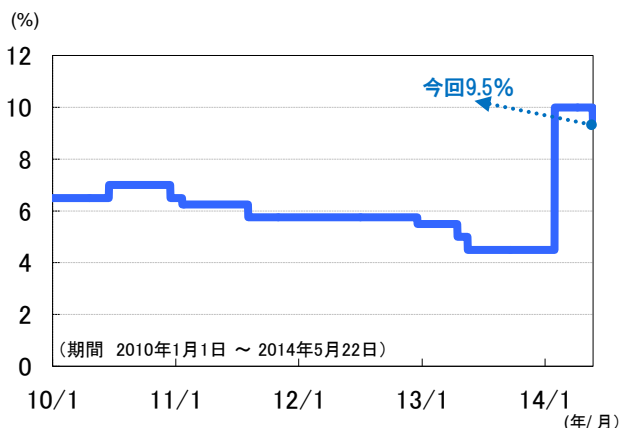
《今後の経済、為替レートについて》

トルコでは景気は上向いています。鉱工業生産の増加や、同指数に先行する鉱工業信頼感の上昇、個人消費関連データの改善など景気の緩やかな拡大がみられます。遅れていた経常収支にも改善がみられます。ただ一方でインフレ率については高止まりを続けています。

トルコでは8月に大統領選が予定されています。3月の統一地方選では現政権の求心力が強まったものの、政権批判デモも燃っており政治リスクも高まっています。政府から高金利是正や景気対策のためさらなる利下げ要求もありますが、インフレリスク、為替レートへの影響が警戒されるため、追加的措置については不透明な状況が続くそうです。

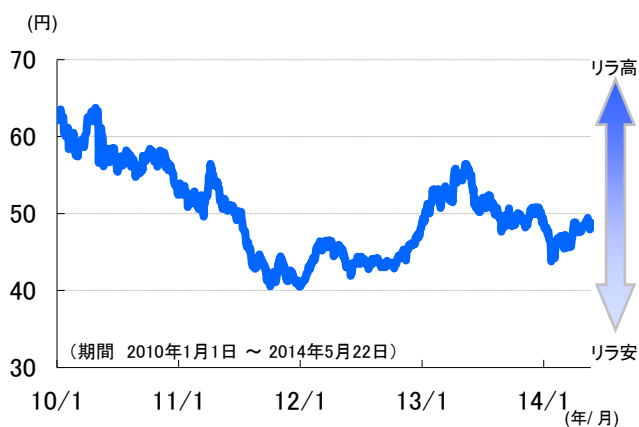
トルコ・リラについては、下値不安は後退していますが上値は重いとみられ、神経質な動きになるとみえています。

《トルコの政策金利等の推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

《トルコ・リラの対円推移》



出所：Bloombergより明治安田アセットマネジメント作成

- 当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客さまの投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類(目論見書等)ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。
- 当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。
- 当資料の内容は作成日における当社の判断であり、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。
- 投資に関する最終的な決定は、お客さま自身の判断でなさるようお願いいたします。